

MIS001-09

会場:304

時間:5月25日 17:45-18:00

## 細粒な海底斜面崩壊堆積物の認定とその意義

## Recognition and importance of fine-grained slope failure deposits for deep-sea paleoseismology

池原 研<sup>1\*</sup>

Ken Ikehara<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所地質情報研究部門

<sup>1</sup> Geological Survey of Japan, AIST

海底の地震発生履歴の検討においては斜面崩壊堆積物が利用される場合がある。過去の地震のすべてに海底斜面が反応し、斜面崩壊が起き、常に泥の降り積もる海底であっても、崩壊堆積物のすべてが保存されるかどうかの検討は必要である。相模湾西部では伊豆半島東方沖地震に伴う混濁流の発生が報告されているが、これによる明瞭な砂質タービダイトの形成は認められない。また、おそらく堆積量が少ない関係で明瞭なタービダイト泥も確認できない。一方、泥質物からなる混濁流でも堆積量が多ければ、紀伊半島沖地震時の海溝斜面の小海盆での例のように厚いタービダイト泥がたまり得る。スマトラ沖、熊野沖、別府湾の例などから、タービダイト泥と通常時の半遠洋性泥ではその物性や粒度・粒子組成が異なることがわかってきた。海底堆積物コアの詳細な検討は今後より細粒な斜面崩壊堆積物の認定を可能にする可能性がある。

キーワード: 海底斜面崩壊, タービダイト, 地震, 古地震, 海底堆積物

Keywords: slope failure, turbidite, earthquake, paleoseismology, marine sediment